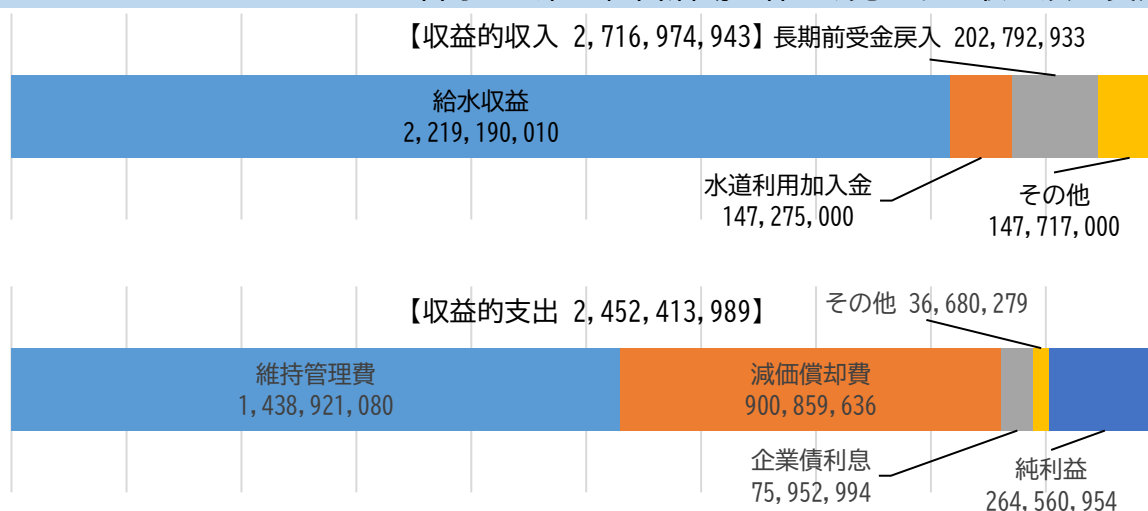


令和6年度 水道事業会計決算の概要

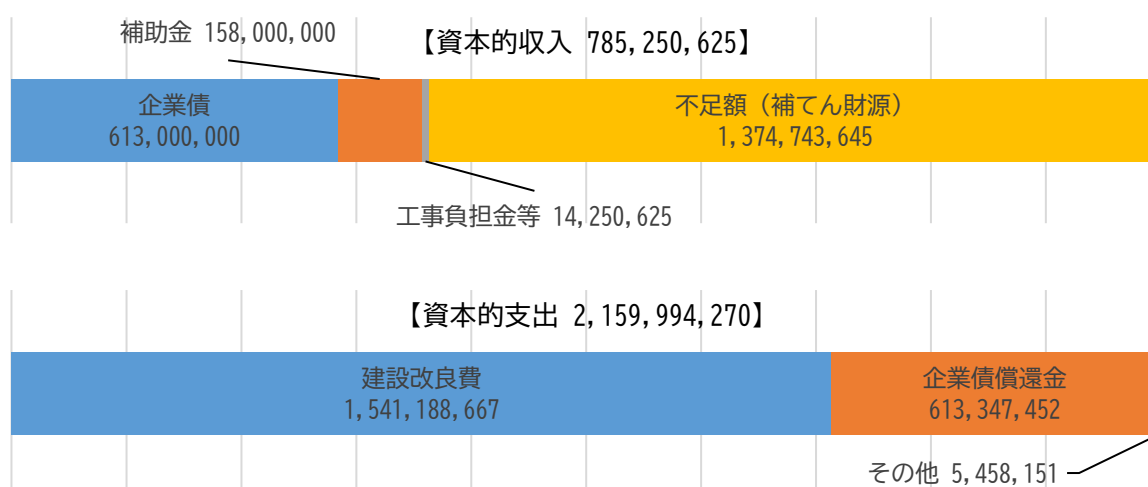
①収益的収支(税抜・単位:円)

1年間の企業の経営活動に伴い、発生する収益及び費用



②資本的収支(税込・単位:円)

施設の建設など支出の効果が翌年度以降に及ぶ費用などの支出とその財源となる収入



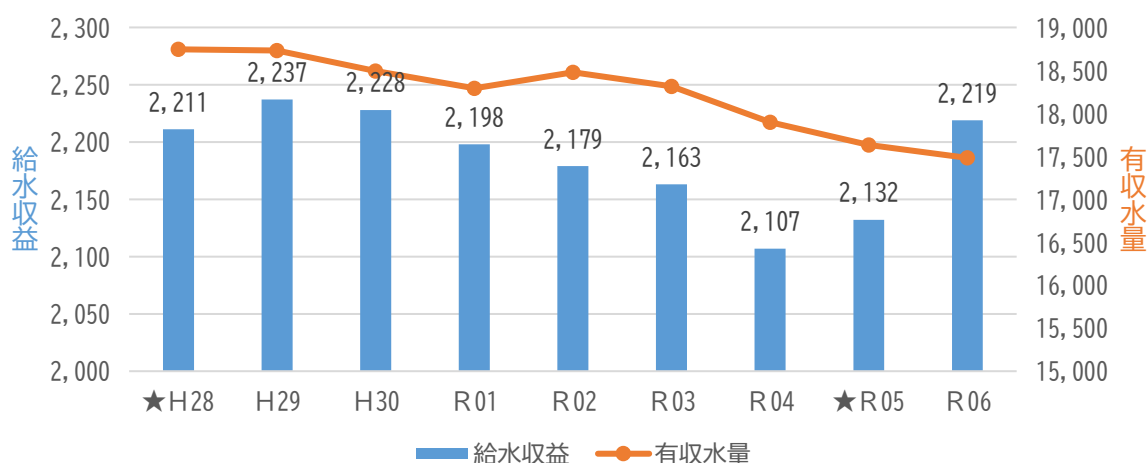
【決算のポイント】

- ・ 前年度と比べて給水収益（水道料金収入）が約 8,750 万円の増収となりましたが、料金回収率は 100 パーセントを下回っています。
- ・ 前年度から約 9,040 万円増の 2 億 6,456 万 954 円の純利益（黒字）を計上しました。
- ・ 不足額は内部留保資金（損益勘定留保資金など）で補てんしました。
- ・ 建設改良費は前年度に比べ約 4 億 2,600 万円の増となりました。管路や施設の耐震化を計画的に進め、基幹管路の耐震化率は 55.9 パーセントになりました。

メモ

※減価償却費…長年使用する資産の取得費用を耐用年数に応じて費用化したもの
 ※長期前受金戻入…長年使用する資産の取得時に交付された補助金等を減価償却費と同様に収益化したもの

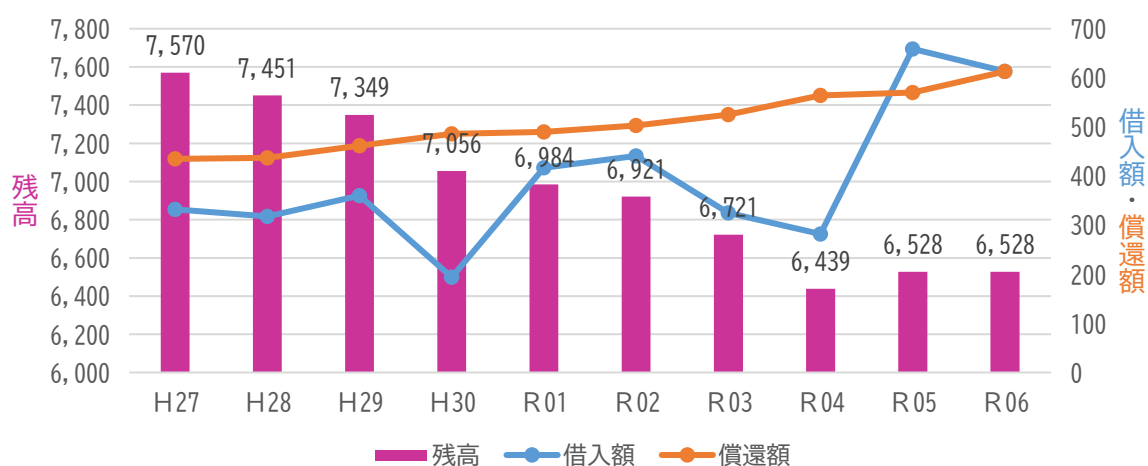
給水収益と有収水量の推移(単位:百万円、千 m^3)



【給水収益と有収水量の推移】

- ・ 給水人口の減少と節水機器の普及などにより有収水量は減少傾向にあります。
- ・ 有収水量の減少に伴い給水収益が減収傾向にあります。資金不足を解消するため、平成28年4月(平均+15%)と令和5年10月(平均+7%)に料金を改定しました。

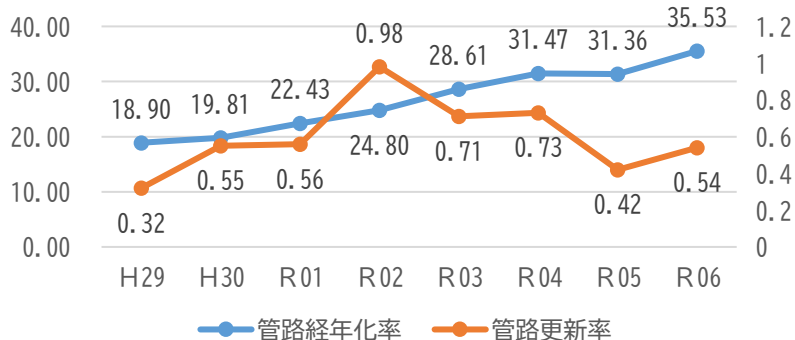
企業債の推移(単位:百万円)



【企業債残高の推移】

- ・ プライマリーバランスを確保し、残高の縮減を進めてきました。
- ・ 今後は、基幹管路等の耐震化を加速化させるため、借入額の増加が見込まれます。

施設の老朽化の状況(単位:%)



【管路の老朽化の状況】

- ・ 管路経年化率は、全国平均よりも高い水準で推移しています。
- ・ 給水収益の減収が見込まれる中、管路の更新が必要な時期がきています。